

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
主任部長	山原 邦浩
部 長	大西 亨
部長(胆膵)兼内視鏡センター長	幡丸 景一
部 長	奴田 絢也
医 長	小西 隆文
医 員	山口 敦弘

＜特色と概要＞

当センターの消化器内科は、日本消化器病学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、および日本肝臓学会認定施設として、各学術団体の厳格な基準を満たした質の高い診療・教育体制を構築している。地域における中核的な消化器疾患の専門拠点として、最先端かつ高度な医療技術の提供と、次世代の専門医育成の両面において重要な役割を担っている。

科内には消化器病、内視鏡、肝臓の各専門医が複数在籍し、その高い専門性を融合させたチーム医療を実践している。刻一刻と変化する患者の病態や疾患に対し、複数の医師が密に連携して多角的な検討を重ねることで、初期診断から高度な急性期治療、そして長期的なフォローアップに至るまで、一貫して「切れ目のない、ぬくもりのある医療」を提供できる体制を整えている。これにより、消化器疾患全般にわたる広範かつ専門的な対応が可能となっている。

対象疾患は多岐にわたり、食道・胃・小腸・大腸の消化管疾患から、肝疾患（B型・C型ウイルス性肝炎、MASLD/MASH等の脂肪性肝疾患、自己免疫性肝炎、肝硬変、肝細胞癌など）、さらには胆道・膵疾患（胆石症、胆管炎、膵炎、膵腫瘍など）まで幅広くカバーしている。これらの疾患に対し、最新のガイドラインや臨床エビデンスに基づいた、安心・安全で最適化された診療を日々展開している。

特に内視鏡診療においては、患者の身体的負担を最小限に抑える低侵襲治療に注力している。上部・下部消化管の検査のみならず、ポリープ切除術、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、止血処置等の治療内視鏡を日常的に施行している。また、胆道・膵疾患に対しても、内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）関連検査・処置を積極的に行っており、胆石除去やステント留置術など、高度な技術を要する専門的治療に対応している。加えて、超音波内視鏡（EUS）を用いた検査体制を拡充し、EUSガイド下穿刺吸引（EUS-FNA）による確実な病理診断

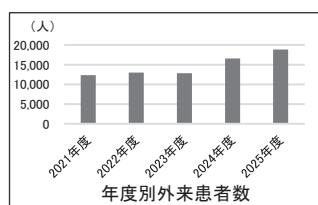
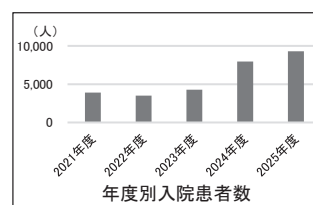
を行うことで、膵胆道領域における診断精度の向上と早期治療への介入を実現している。さらに、予後不良とされる胆道癌や膵癌に対しても、最新のエビデンスに基づいた抗がん剤治療（化学療法）を積極的に導入しており、副作用管理を徹底しながら、患者のQOL（生活の質）に配慮した治療の継続に全力を注いでいる。

肝疾患領域においても豊富な診療実績を有し、最新の抗ウイルス療法から肝硬変の合併症管理、肝細胞癌に対する多角的な診断および治療方針の策定、肝生検による病理評価までを包括的に実施している。また、日々のスクリーニングや経過観察においては、従来の腹部エコーや血液検査に加え、肝硬度測定をはじめとする最新の非侵襲的診断技術を積極的に取り入れ、患者への負担を最大限に軽減しつつ、より精度の高い医療提供に努めている。常に地域医療機関と緊密な連携を図り、近隣の皆さまが安心して最善の医療を受けられる環境を追求し続けている。

＜実績＞

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2021年度	12,324	50.9	3,910	10.7
2022年度	13,009	53.5	3,511	9.6
2023年度	12,847	52.9	4,283	11.7
2024年度	16,565	68.2	7,959	21.8
2025年度	18,846	77.9	9,296	25.5



入院患者の疾患名と人数(主病名件数 上位50まで)

(期間2025/4/1-2026/3/31退院)

主病名 (ICD10コード名)	ICD10	件数
大腸＜結腸＞のポリープ	K635	166
結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物＜腫瘍＞、結腸、部位不明	D126	100
結腸の悪性新生物＜腫瘍＞、結腸、部位不明	C189	98
胃の悪性新生物＜腫瘍＞、胃、部位不明	C169	77
胆管炎及び胆のう＜嚢＞炎を伴わない胆管結石	K805	71
膵の悪性新生物＜腫瘍＞、膵、部位不明	C259	71
胆管炎	K830	63
胃腸出血、詳細不明	K922	58
胆管炎を伴う胆管結石	K803	56
穿孔又は膿瘍を伴わない大腸の憩室性疾患	K573	47
肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞、肝細胞癌	C220	30
その他及び部位不明の胆道の悪性新生物＜腫瘍＞、肝外胆管	C240	21
腸の血行障害、詳細不明	K559	21
急性膵炎、詳細不明	K859	18
詳細不明の原因による胃腸炎及び大腸炎	A099	16

主病名 (ICD10コード名)	ICD10	件数
胃潰瘍, 慢性又は詳細不明, 出血を伴うもの	K254	15
食道の悪性新生物<腫瘍>, 食道, 部位不明	C159	15
口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>, 結腸	D374	15
閉塞を伴う腸癒着[索条物]	K565	14
腹水	R18	13
口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>, その他の消化器	D377	13
急性胆のう<囊>炎を伴う胆のう<囊>結石	K800	12
胆管閉塞	K831	11
膵の悪性新生物<腫瘍>, 膵頭部	C250	10
貧血, 詳細不明	D649	9
その他の胆のう<囊>炎を伴う胆のう<囊>結石	K801	9
メレナ	K921	9
急性胆のう<囊>炎	K810	7
アルコール性肝硬変	K703	7
胃潰瘍, 急性又は慢性の別不明, 出血又は穿孔を伴わないもの	K259	6
その他の慢性膵炎	K861	6
原発性胆汁性肝硬変	K743	6
消化器系のその他及び部位不明の良性新生物<腫瘍>, 十二指腸	D132	6
胃及び十二指腸のポリープ	K317	6
肝膿瘍	K750	6
胆のう<囊>炎, 詳細不明	K819	6
出血を伴う食道静脈瘤	I850	5
イレウス, 詳細不明	K567	5
直腸の悪性新生物<腫瘍>	C20	5
小腸の悪性新生物<腫瘍>, 十二指腸	C170	5
感染症が原因のその他及び詳細不明の胃腸炎及び大腸炎	A090	5
軸捻(転)	K562	5
胆石性急性膵炎	K851	5
アルコール性急性膵炎	K852	5
口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>, 肝, 胆のう<囊>及び胆管	D376	4
急性ウイルス性肝炎, 詳細不明	B179	4
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>, 肝内胆管癌	C221	4
その他及び詳細不明の肝硬変	K746	4
口腔及び消化器の性状不詳又は不明の新生物<腫瘍>, 胃	D371	4
胆のう<囊>炎を伴わない胆のう<囊>結石	K802	4

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

2025年度は、新たな主任部長を中心とする新体制のもと、常勤医6名体制で1年間の診療を継続した。前年度までに培われた診療基盤を活かし、医療資源を最大限に活用しながら業務の効率化と高い診療の質を維持し、外来・入院ともに診療対応力の向上と地域医療ニーズへの的確な対応に努めてきた。

実際、診療実績にもその成果は明確に表れており、前年度の外来延べ患者数16,565人から当年度には18,846人へと増加、入院延べ患者数も7,959人から9,296人へと大幅に増加した。このような実績の推移は、当科の医療提供体制が地域に深く浸透し、確かな信頼として定着しつつある結果と捉えている。同時に、増大する地域からの医療ニーズに対しても、一定の役割を果たせるだけの対応力が備わってきたと確信している。

次年度となる2026年度には、最新の機能を備えた新たな

内視鏡装置の導入を予定している。これにより、これまで以上に高精度で迅速な診断と、患者への身体的負担を抑えた低侵襲治療が可能となり、さらに地域の皆さまの健康と医療に貢献できるものと考えている。

今後とも地域中核病院として、地域医療機関やかかりつけ医との連携を一層重視し、消化器疾患を中心とした急性期から慢性期まで幅広い症例の積極的な受け入れと、安全で質の高い医療の提供に全力を尽くしていきたい。